

平成31年度 東京都立国際高等学校

推薦に基づく選抜

小論文

注 意

- 1 問題は2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は60分で、終わりは午前10時00分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 7 540～600字で書きなさい。ただし、書き出しや改行の際の空欄、
、 や 。 や「などもそれぞれ字数に数えなさい。
- 8 横書きにすること。
- 9 題は書かないこと。

<文章1>及び<文章2>を読んで、あなたは都立国際高校でどのようなことを意識して学校生活を送っていききたいと考えていますか。理由と具体例を挙げて540字～600字で論じなさい。

<文章1>

早いもので、もう十数年も前のことになるが、私は米国イリノイ大学の言語学科で一年ほど、言語社会学を講義したことがある。毎朝、私が車で大学に行ってしまうと、家内は広い庭に草花を植えたり、地元の新聞を読んだり、好きなレース編みをしたりで、結構楽しく時間を使っていた。

ある日のこと大学から戻った私に突然、家内が、「英語で太陽の色は何色かしら」と言った。私が「そんなこと赤に決まっているじゃないか」と答えると、「そうでしょう、でもうまく合わないのよ」と、新聞のクロスワード・パズルを持って来た。

太陽の色(The color of the sun)というヒントに従って赤(red)を入れると、文字欄が三つ余ってしまうというのだ。私は変だなあと言いながらも、思いつくままにいろいろな色彩名を入れてみた。すると黄(yellow)なら上下・左右ともピッタリすることが分かったのである。

しかし太陽の色が黄色とは、どう考えても変だということで、さっそくアメリカ人の知人に電話をかけてみた。すると誰もが、黄色に決まっているじゃないか、どうしてそんな馬鹿なことを、わざわざ聞くのかといった調子なので、本当に驚いてしまった。

日本人である私たち二人の心の中には、小さな子供の頃から「白地に赤く、日の丸染めて、ああ美しや、日本の旗は……」の「日の丸」の歌をはじめ、白い御飯の真中に赤い梅干し一つの日の丸弁当、そして小さな子供たちの描く太陽の絵はみんな赤いクレヨンの丸だったことなどすべてが、太陽は赤いものという確信を育てていたのだ。それが黄色だなんて、それじゃ月じゃないか、というのが私たちの率直な反応だったのである。

ところで、英語で太陽が黄色ならば、フランス語やドイツ語ではどうだろうと、すぐ子供の絵本を開いたり、図鑑を出したりして調べてみると、ここでも太陽は黄色なのである。中には美しいレモン・イエローの太陽の横に、Le soleil est jaune. (太陽は黄色い) とか、Die Sonne ist gelb. (太陽は黄色い) とちゃんと書いてある絵本まで見つかった。

なんとも嫌なことは、私がこの時までこれらの本を見たことがないわけではないということである。自分に問題意識がないときは、せつかくの貴重な情報が目や耳に入っても、素通りしてしまっているのだ。いつも思うことだが、人間の目や耳は、カメラやテープレコーダーとは違い、自分の持つ固有の文化で、与えられた生の情報の一部を消去したり、自分に都合のよいように曲げて解釈する強い傾向を持っているので、新しいことに、私たちはなかなか気付かない。古人のいう「見れども見えず、聞けども聞こえず」こそ、むしろ人間の正常なあり方だとさえ言えるのである。

さてこの事件をきっかけに、私は機会あるごとに、ヨーロッパの諸言語で、太陽は何色と考えられているかを調べてみた。その結果、これまでのところ、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語といった西ヨーロッパの言語圏では、太陽は一樣に黄色いものとされていることが判明した。面白いことに、ロシア語は赤(красный)で、恐らくポーランド語も赤らしいから、東欧スラヴ語地域は日本語と同じく赤である可能性が高い。

(鈴木孝夫著『日本語と外国語』岩波書店、1990年刊行 より)

<文章2>

日本人だけがする非言語行動をいくつか挙げてほしいと言われたら、皆さんはすぐに思い浮かべることができるでしょうか。おそらく急に言われても、すぐには頭に浮かばないかもしれません。しかし、日本人特有の非言語動作は数多く存在します。そのいくつかを以下に紹介しましょう。

- (1)腕で○や×を作る — 「OK」と「だめ」
- (2)顔の前で手を左右に振る — 「だめ」や「ノー」
- (3)頭をかく — 「照れている」「恥ずかしい」
- (4)親指、人差し指の順に指を折り、小指から指を伸ばしていく — 「数を数える」
- (5)両手の人差し指を横にして、両目の下に当てる — 「泣いている」
- (6)両手の人差し指を頭の上で立てる — 「怒っている」
- (7)人差し指で自分の鼻を指す — 「自分を意味する」
- (8)顔の前で左右の手のひらを合わせる — 「お願い」「許して」
- (9)手で口を覆う — 「笑いを隠す」

(中略)

- (11)解答に○×を付ける — 「○は正解、×は不正解」
- (12)自分の小指と相手の小指を絡める — 「約束する」
- (13)相手の話にうなづく — 「話を聞いている(外国では相手に同意している意味になる)」

ここに上げた非言語動作は日本文化だけに通用するものです。ためしに、もしあなたのまわりに外国人がいたら聞いてみるといいでしょう。何気なくやっている動作は日本人にしか通用しないものが多いです。だから、その人の非言語行動から日本人かそうでないかが簡単にわかることとなります。

(原沢伊都夫著『多文化共生のための異文化コミュニケーション』明石書店、2014年刊行 より)